# 2019年度　決算説明資料

2020年6月10日
シンフォニアテクノロジー株式会社
（証券コード6507）

SINFONIA

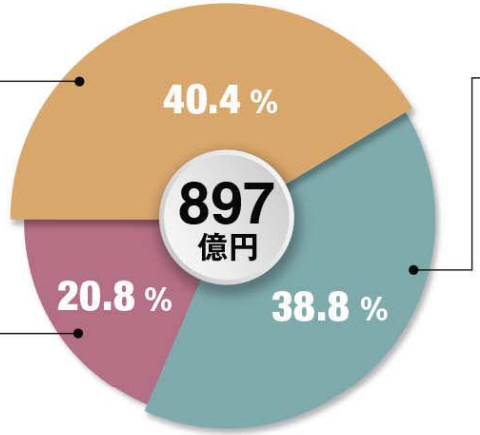
# 会社概要①

創業　：1917年5月（大正6年）
設立　：1949年8月（昭和24年）
資本金：101億5,696万円（2020年3月末）
従業員：連結 3,654名　単体 1,925名

# 会社概要②セグメント情報

## パワーエレクトロニクス機器

- ●リフティングマグネット「リフマグ®」
- ●サブマージドモータ
- ●超高真空溶解炉
- ●自動車用評価システム
- ●実車衝突実験システム
- ●上下水中央監視システム
- ●上下水道電気設備
- ●道路管理用電気設備
- ●振動搬送機器
- ●パーツフィーダ
- ●ミニエンバイロメントシステム
- ●ロードポート




## モーション機器

- ●高速昇華型デジタルフォトプリンタ
- ●カード／IDプリンタ
- ●空港用地上支援車両
- ●超重量物搬送用大型自走台車
- ●宇宙ロケット用電装品
- ●航空機用電装品
- ●鉄道・建設機械車両用電装品
- ●ダイレクトドライブモータ
- ●化合維用高速モータ
- ●電磁クラッチ／ブレーキ

## サポート&エンジニアリング

- ●電気工事・エンジニアリング
- ●ソフトウェア開発
- ●病院内高速搬送システム

醒いてこそ技術 SINFONIA

# 会社概要③中核事業概要

- 中期計画「SINFONIA ABC 2020」では、シンフォニアテクノロジーグループのこれまでのノウハウや、市場成長性への期待から、以下の５つを中核事業と位置づけ、経営リソースを重点的に投入。

『航空宇宙事業』(ﾓｰｼｮﾝ機器)
- 航空機用電装品
- 宇宙ロケット用電装品
- 空港用地上支援車両

『モーションコントロール機器事業』(ﾓｰｼｮﾝ機器)
- 鉄道/建設機械車両用電装品
- ダイレクトドライブモータ
- 化合維用高速モータ
- 電磁クラッチ・ブレーキ

『クリーン搬送機器事業』(ﾊﾟﾜｰｴﾚｸﾄﾛﾆｸｽ機器)
- ロードポート
- EFEM
- ソーター

『振動機器事業』(ﾊﾟﾜｰｴﾚｸﾄﾛﾆｸｽ機器)
- 振動乾燥/冷却装置
- 振動コンベヤ
- パーツフィーダ

『エンジニアリング事業』(ｻﾎﾟｰﾄ＆ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ)
- 半導体製造工場向け設備工事
- 各種電気設備工事
- アフターサービス

響いてこそ技術 SINFONIA

# 2019年度決算概要

# ２０１９年度連結決算

（単位：億円）

| | 18年度実績 | 19年度実績 | 対前年比 | | 前回(19/9公表ﾍﾞｰｽ) | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 増減額 | 増減率 | 予想 | 差異 |
| 受注高 | 953.9 | 888.6 | ▲65.3 | ▲6.8% | 950.0 | ▲61.4 |
| 売上高 | 941.6 | 897.6 | ▲44.0 | ▲4.7% | 900.0 | ▲2.4 |
| 営業利益 | 62.4 | 30.7 | ▲31.7 | ▲50.8% | 36.0 | ▲5.3 |
| 経常利益 | 63.0 | 28.7 | ▲34.3 | ▲54.4% | 33.0 | ▲4.3 |
| 当期利益（※） | 46.4 | 16.9 | ▲29.5 | ▲63.6% | 21.0 | ▲4.1 |

(※)親会社株主に帰属する当期純利益



響いてこそ技術 SINFONIA

# セグメント別業績総括(モーション機器)

（単位：億円）

| | 18年度 実績 | 19年度 実績 | 対前年比 | | 前回(19/9公表ﾍﾞｰｽ) | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 増減額 | 増減率 | 予想 | 差異 |
| 受注高 | 392.2 | 332.6 | ▲59.6 | ▲15.2% | 350.0 | ▲17.4 |
| 売上高 | 379.8 | 348.2 | ▲31.6 | ▲8.3% | 345.0 | 3.2 |
| 営業利益 | 13.4 | ▲9.7 | ▲23.1 | － | ▲4.0 | ▲5.7 |

◆対前年度は、米中貿易摩擦や新型コロナウイルス感染症拡大等の影響により、自動車・FA分野で設備投資姿勢の慎重化が見られ、受注高・売上高ともに前年度を下回った。
営業利益については、売上高の減少による減益に加え、航空宇宙事業の将来に向けての新規案件の費用増等により前年度より大きく下回った。

◆対前回予想は、受注高は自動車・FA分野向け機器等が減少したが、売上高はほぼ予想通りとなった。
営業利益については、航空宇宙事業の新規案件の費用増等により、予想を大きく下回った。

# セグメント別業績総括(パワーエレクトロニクス機器)

（単位：億円）

| | 18年度 実績 | 19年度 実績 | 対前年比 | | 前回(19/9公表ﾍﾞｰｽ) | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 増減額 | 増減率 | 予想 | 差異 |
| 受注高 | 364.2 | 359.2 | ▲5.0 | ▲1.4% | 380.0 | ▲20.8 |
| 売上高 | 373.3 | 362.8 | ▲10.5 | ▲2.8% | 360.0 | 2.8 |
| 営業利益 | 33.8 | 24.4 | ▲9.4 | ▲27.9% | 25.0 | ▲0.6 |

◆対前年度は、半導体業界の設備需要が回復したクリーン搬送機器事業で増加したものの、
顧客の設備投資が停滞した振動機器事業で減少となり、受注高・売上高ともに前年度を下回った。
営業利益については、振動機器事業の減収等が主要因となり前年度を下回った。

◆対前回予想は、社会インフラ事業での減により受注高は予想を下回った。
売上高、営業利益は ほぼ予想通りとなった。

# セグメント別業績総括(サポート&エンジニアリング)

（単位：億円）

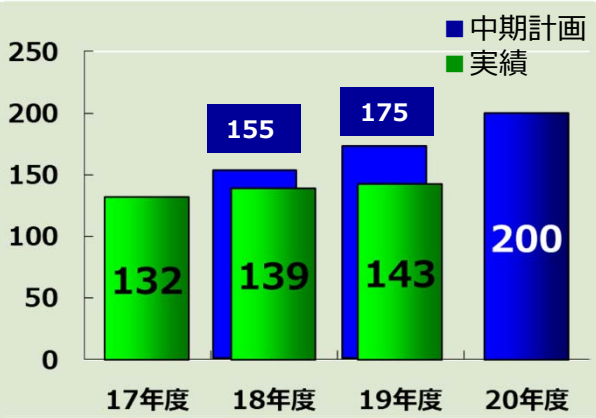
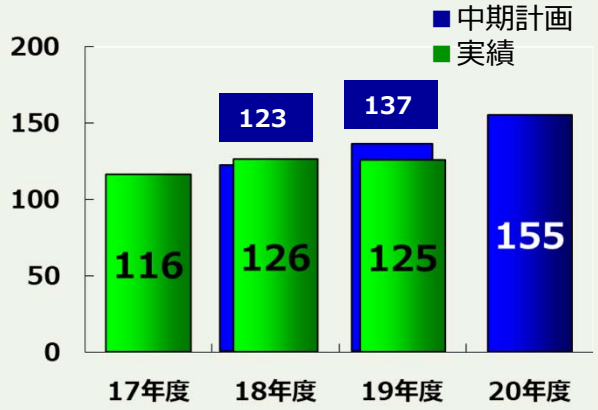
| | 18年度実績 | 19年度実績 | 対前年比 | | 前回(19/9公表ﾍﾞｰｽ) | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 増減額 | 増減率 | 予想 | 差異 |
| 受注高 | 197.4 | 196.9 | ▲0.5 | ▲0.3% | 220.0 | ▲23.1 |
| 売上高 | 188.4 | 186.6 | ▲1.8 | ▲1.0% | 195.0 | ▲8.4 |
| 営業利益 | 15.4 | 16.3 | 0.9 | 5.4% | 16.0 | 0.3 |

◆対前年度は、引き続き工事案件が堅調であったことから、受注高・売上高・営業利益について、ほぼ前年通りとなった。

◆対前回予想は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響での減少により、受注高・売上高ともに減少した。営業利益は、売上高の減少による減益要素はあったものの、工事関係の収益性改善等によりほぼ予想通りとなった。

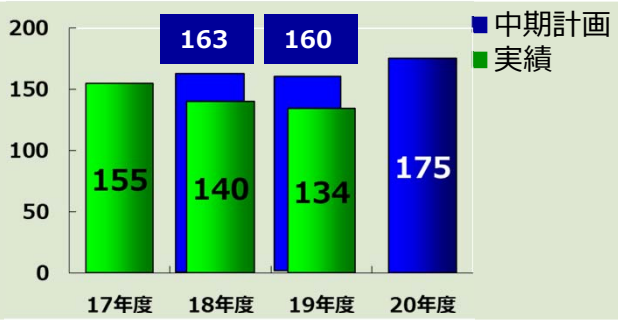
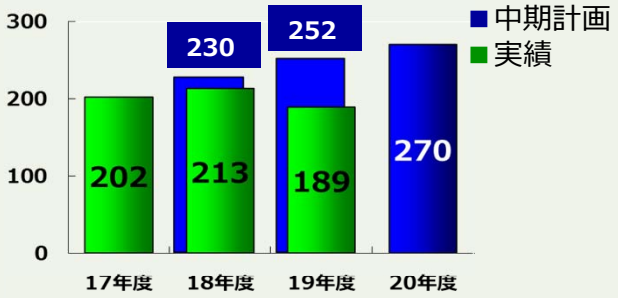
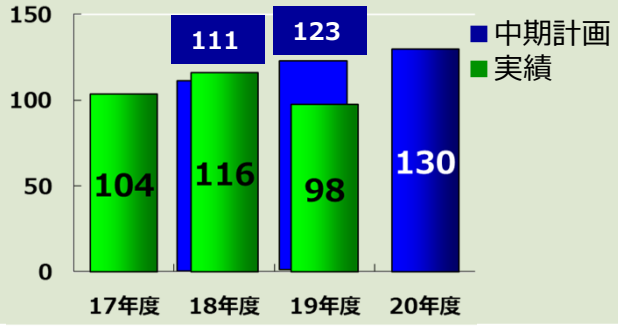
# 中核事業の2019年度の状況

**好調**　中期計画には届かないが、前年水準を維持。20年中期目標にチャレンジ。

| 中核事業 | 売上高推移(億円) | 2019年度 |
|---|---|---|
| ｸﾘｰﾝ搬送機器事業<br>(ﾊﾟﾜｰｴﾚｸﾄﾛﾆｸｽ機器) |  | 停滞していた半導体市況が後半より復調。市況の回復に合わせて2020年2月に工場を拡張し、前年度を上回る水準まで巻き返した。システム製品を拡充させ受注高についても好調に推移 |
| ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ事業<br>(ｻﾎﾟｰﾄ&ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ) |  | 依然堅調な電気工事などの設備工事の需要に対して、営業エリアを拡大し展開することで、着実に受注を獲得した。売上は前年度並みの水準を維持 |

# 中核事業の2019年度の状況

**低調**　中期目標との乖離が大きく、前提条件の見直しが必要な状況。

| 中核事業 | 売上高推移(億円) | 2019年度 |
|---|---|---|
| 航空宇宙事業<br>(ﾓｰｼｮﾝ機器) |  | 空港用地上支援車両の反動減などにより受注が減少。航空機向けでは、将来に向けての新規案件の開発遅れが生じており、売上が減少 |
| ﾓｰｼｮﾝｺﾝﾄﾛｰﾙ事業<br>(ﾓｰｼｮﾝ機器) |  | 低調な自動車・FA業界において設備投資に対する慎重な姿勢が継続したことに加えて、新規案件が伸びを欠き、受注および売上が減少 |
| 振動機器事業<br>(ﾊﾟﾜｰｴﾚｸﾄﾛﾆｸｽ機器) |  | 顧客ニーズに対応した新機能製品の開発を継続したものの、自動車・電子部品業界などの設備投資が停滞し、受注および売上が減少 |

# 配当について

- 配当については継続的かつ安定的に実施していくことを基本としつつ、株主の皆様の利益と、企業体質の強化及び今後の事業展開のための内部留保の充実、先行きの収益状況を勘案して利益配分を決定
- 2020年3月期の連結業績の悪化に加えて、新型コロナウイルス感染症の影響が継続し、企業の投資活動の回復時期が見通せない状況の下、財務基盤の安定化や今後の成長投資に備えるため、2020年3月期の期末配当を前回予想の1株当たり40円から10円減配し、1株当たり30円とする予定

| | 15年3月期 | 16年3月期 | 17年3月期 | 18年3月期 | 19年3月期 | 20年3月期 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1株当配当金（円） | 3 | 4 | 7 | 7 | 40 ※1 | 30 |
| 1株当たり当期純利益（円） | 12.24 | 19.17 | 26.75 | 35.35 | 155.89 | 56.94 |

※1：18年10月1日、株式併合（5株を1株に併合）を行ったため

# 2020年度について

# 2020年度の業績予想について

## 業績予想について

- 2021年3月期の通期連結業績予想については、新型コロナウイルス感染症収束の目途が立たない中、事業活動及び経営成績に与える影響を合理的に算定することが困難であることから、「未定」とする
- 今後、業績の予想が可能になった時点で、速やかに公表

## 中期計画について

- 2020年度は、3か年のグループ中期計画の最終年度だが、今般の経済活動の急速な落ち込みにより、事業計画の前提条件が大きく変化したことを受け、2020年度計画の目標達成は困難な状況
- 今後も中期計画の基本方針である、強固な収益性、健全な財務体質確立に向けた土台作りと、先進技術を活用した技術開発力のさらなる強化に取り組み、将来にわたって成長し続ける企業を目指す

## 今後の取組

- 新型コロナウイルス感染症拡大による、国内外の産業構造や需要構造の変化を再検証し、新たな成長基盤を再構築する
- 「事業構造」、「経営指標」、「感染拡大防止を含めた働き方」等の見直しを検討する

# 新型コロナウイルスの感染拡大の影響①

## 販売への影響

- 外出・移動制限の中、在宅勤務の環境を整備し、お客様とコミュニケーションを図り営業活動を継続している
- 経済活動の停滞により、生産・在庫調整、及び設備投資の動きが、不透明感を増している
- 諸外国の渡航制限は、営業活動だけでなく受注済み案件の現地立会にも影響、ビジネスの進捗のネックとなる恐れ

| 地域 | 拠点名 | 状況 |
|---|---|---|
| 日本 | 本社・各営業所 | 在宅勤務・時差出勤継続 |
| 中国 | ｼﾝﾌｫﾆｱﾃｸﾉﾛｼﾞｰ(上海) | 通常勤務(2月上旬より段階的に再開(移動制限有)) |
| 米国 | ｼﾝﾌｫﾆｱﾃｸﾉﾛｼﾞｰ(ｱﾒﾘｶ) | 在宅勤務(3月中旬より継続) |
| ｼﾝｶﾞﾎﾟｰﾙ | ｼﾝﾌｫﾆｱﾃｸﾉﾛｼﾞｰ(ｼﾝｶﾞﾎﾟｰﾙ) | 在宅勤務(4月上旬より継続、6月より段階的に稼働再開) |
| ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ | ｼﾝﾌｫﾆｱﾃｸﾉﾛｼﾞｰ(ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ) | 在宅勤務(3月末より継続) |

## 生産への影響

- 国内外とも、サプライチェーンの稼働率低下や、特定部材の調達に一時懸念が生じたが、代替調達先の確保により、生産への影響を最小限に留めている
- 感染拡大予防対策を講じた上で、通常稼働を開始している

| 地域 | 拠点名 | 状況 |
|---|---|---|
| 日本 | 伊勢製作所・豊橋製作所 | 通常稼働(一部在宅勤務実施) |
| 中国 | 天津神鋼電機 | 通常稼働(2月中旬より段階的に操業再開) |
| | ｼﾝﾌｫﾆｱﾏｲｸﾛﾃｯｸ(東莞) | 通常稼働(2月上旬より段階的に操業再開) |
| | ｼﾝﾌｫﾆｱｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ(上海) | 通常稼働(2月上旬より段階的に操業再開) |
| タイ | ｼﾝﾌｫﾆｱﾃｸﾉﾛｼﾞｰ(ﾀｲ) | 通常稼働 |
| ベトナム | ｼﾝﾌｫﾆｱﾏｲｸﾛﾃｯｸ(ﾍﾞﾄﾅﾑ) | 通常稼働 |



響いてこそ技術 SINFONIA

# 新型コロナウイルスの感染拡大の影響②

## 主な事業への影響

●新型コロナウイルスの感染拡大による影響は、設備投資姿勢の慎重化を招いており、一部軽微な影響にとどまる事業はあるものの、長期に渡り影響が残る恐れがある

| 影響度 | 事業 | 状況 |
|---|---|---|
| | 航空宇宙事業<br>(ﾓｰｼｮﾝ機器) | ・航空機関連の開発案件は継続、防衛・宇宙用装備品は横ばい<br>・空港の機材調達が凍結状態 |
| | ﾓｰｼｮﾝｺﾝﾄﾛｰﾙ機器事業<br>(ﾓｰｼｮﾝ機器) | ・顧客の生産調整・在庫調整の影響で、産業機械用のﾓｰｼｮﾝｺﾝﾄﾛｰﾙ機器が停滞、立ち上がり時期不透明<br>・ﾛﾎﾞｯﾄ需要の立ち上がりが鍵 |
| | ｸﾘｰﾝ搬送機器事業<br>(ﾊﾟﾜｰｴﾚｸﾄﾛﾆｸｽ機器) | ・ｸﾗｳﾄﾞ、5G関連で半導体需要が旺盛、 顧客の設備は堅調 |
| | 振動機器事業<br>(ﾊﾟﾜｰｴﾚｸﾄﾛﾆｸｽ機器) | ・自動車の需要後退により、関連業界(鉄鋼、化学)の顧客の投資が縮小<br>・食品業界向けは横ばい<br>・電子部品業界は、後半回復と予想 |
| | ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ事業<br>(ｻﾎﾟｰﾄ&ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ) | ・中国における半導体工場向け設備工事再開<br>・国内設備工事の需要は継続して堅調 |



響いてこそ技術 SINFONIA

# 中核事業における取り組み

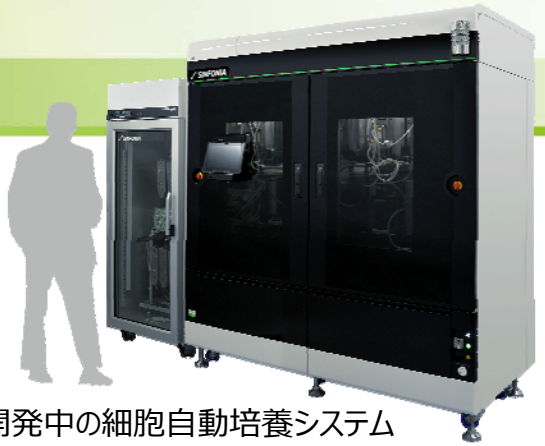
●将来にわたって成長し続けるために、中核事業においては、以下の取り組みを進めていく

| | 取り組み |
|---|---|
| ｸﾘｰﾝ搬送機器事業<br>(ﾊﾟﾜｰｴﾚｸﾄﾛﾆｸｽ機器) | ・拡大基調にある米国市場の需要を取り込むべく体制を強化する<br>・需要拡大に対応するために、リソースを投下する |
| 航空宇宙事業<br>(ﾓｰｼｮﾝ機器) | ・航空・宇宙機器産業の電動化の流れに合わせた開発を継続する<br>・生産効率の改善を進める |
| ﾓｰｼｮﾝｺﾝﾄﾛｰﾙ事業<br>(ﾓｰｼｮﾝ機器) | ・着実に進んでいる自動化・電動化の流れを取り込むため、ラインアップ拡充と、<br>生産体制の効率化を進める |
| 振動機器事業<br>(ﾊﾟﾜｰｴﾚｸﾄﾛﾆｸｽ機器) | ・顧客ニーズに合わせた新製品の開発を進める<br>・システム製品の比率向上に向けたアライアンス等の活動を行う |
| ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ事業<br>(ｻﾎﾟｰﾄ&ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ) | ・拡大している中国での建設需要にともなう搬送設備工事に注力する<br>・堅調な国内の設備工事に向けて、展開エリアをさらに拡大する |

# 次世代ビジネスの創出

## ①再生医療分野

- 細胞培養システムの開発を継続
- 欧州・アジアを中心にパートナー企業を継続して探索中



開発中の細胞自動培養システム

## ②ロボット搬送分野

- 農業の生産効率向上を目的として、AIを用いた作業支援ロボットを開発
- 自走式の搬送ロボットについて、FA市場の人手不足と、国内回帰のニーズに対応した水平展開を図る

大葉収穫作業支援ロボット（左）と切り花自動搬送ロボット（右）(豊橋技術科学大学殿との共同開発)

## ③大学との長期連携研究

- 豊橋技術科学大学殿と「シンフォニアテクノロジー　次世代スマートファクトリー共同研究講座」を同大学に開設、5年半にわたる長期間の共同研究講座を通じて、知識、経験及び人的・物的資源を相互に活用した研究を推進すると同時に、高度な人材を育成
- IoT、AI、ビッグデータ、ロボット制御等、最新技術を採用することで、研究開発を加速・達成させ、より効率的に新商品を創出

共同研究講座　開設式での記念写真

響いてこそ技術
SINFONIA

## 将来予測について

本資料中の見通し及び事業計画については、現時点における将来環境予測等の仮定に基づいております。

本資料において当社の将来の業績を保証するものではありません。